

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

**KECA ニュース =No.66=****【巻頭言】 地域へ貢献するKECAの基盤づくり****～KECAの様々な活動をつなぐ事務局・財務局機能の強化～**

理事長 河野健三

**1. はじめに**

- (1) 5月18日の通常総会で新しい役員が選任され2年の任期が始まりました。事務局に新しい役員はもとよりスタッフとしてフレッシュな会員を加え、事務局機能を強化することにより地域へ貢献するKECAの基盤づくりを進めます。私は2006年にKECAに入会して様々な活動に参加し多くのことを学ばせて頂きました。この13年の経験を次の人たちに伝えることが私の役割と考えています。
- (2) 前回のKECAニュース65号の巻頭言は「2030年を見据えたKECAの仕組みづくり」～会員の総力を結集した運営体制の構築～を掲げました。令和元年からの2年間でKECAの基盤づくりの年と位置づけ、2030年を見据えたKECAの体制はどうあるべきかについて検討していきます。ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

**2. 私の経験から得られたKECAの検討課題**

- (1) 中長期計画を策定する。
- (2) 事業活動を増やし、理事会と委員会活動・支部活動を活性化する。
- (3) 持続可能なKECAとするために健全財政を維持する。
- (4) 広報活動と渉外活動を積極的に行う。

**3. 事務局・財務局機能の強化**

- (1) KECAニュース64号の巻頭言では、KECAの役割はKECAが中心となって市民・事業者・学校・行政等との連携を取り、環境保全活動を進めることにあると申し上げました。KECAの役割は、全ての環境保全活動の仲介者であると考えています。
- (2) KECAの役割は会員同志の連携、団体同志・事業者同志・団体と事業者との連携、行政との連携をどのように構築していくかにあると考えています。連携の基盤となるのはお互いの信頼関係です。これをどのように構築していくかに力を注いでいきます。
- (3) まずは会員同志の信頼関係をつくるため、事務局機能を強化し、各支部・委員会の活動をつなぎKECA活動の活性化を進めます。
- (4) 健全財政の維持も喫緊の課題であり、来年度予算の策定を契機として財務局機能の強化を進めていきます。

**4. 2030年を見据えた2020年度計画の策定**

- (1) 事務局・財務局機能の強化を進めつつ、2030年を見据えた2020年度計画の策定を進めます。
- (2) 事務局・財務局を主体として検討を進め、拡大理事会等により各支部・委員会へ策定をお願いしていきます。

## ～目 次～

p.1	巻頭言 地域へ貢献するKECAの基盤づくり ～KECAの様々な活動をつなぐ事務局・財務局機能の強化～	理事長 河野 健三
p.2	第23回 KECA 通常総会報告	副理事長 千葉 雅子
p.3	ECU（環境カウンセラー全国連合会）通常総会報告	理事長 河野 健三
p.4	【イベント報告】 KECA 総合研修会実施報告	2019年度総合研修会事務局 大曾根健久
p.5	8年目の『福島の間人たちとの交流会』	2019 福島交流会事務局 大曾根健久
p.6	【委員会の活動報告】	環境教育委員会 岡本 正義 環境経営委員会 近藤 勝養 化学物質委員会 石井 員良 エネルギー研究会 村井 哲郎
p.10	【支部の活動報告】	横浜支部 河野 健三 湘南支部 小山 稔
p.12	【新入会員】〈自己紹介〉	掛橋俊彦、北条 慶智

## 第23回（2019年度）KECA 通常総会報告

副理事長 千葉雅子

第23回通常総会は5月18日（土）、昨年に引き続き恒例の波止場会館で開催されました。出席会員数は29名と少なかったのですが、事業報告から定款変更までの議案はすべて承認され、無事終了することが出来ました。ご協力ありがとうございました。審議内容については総会議事録に記載されているので省略しますが、会員からも多くの質問が出る等 活発な意見交換が行われ充実した通常総会であったと考えております。

## 1. 2019年度活動計画の概要

- (1) KECAは令和元年(2019年)の11月にNPO法人認証取得から20周年を迎えます。令和元年を「これまでの知見を大切に新しいことにチャレンジする」基礎づくりの年と位置付けて活動して行きます。
- (2)引き続き、各支部、各委員会・研究会の事業計画、活動計画により活動します。一方事務局として会員の総力を結集した運営体制づくりとして、KECA人材バンクシステム構築に着手します。
- (3)広報部会に各支部・委員会等の担当者に加えホームページの充実を図ると共に関係団体との連携を進めます。



受付の高橋副理事長と千葉副理事長

## 2. 定款変更の概要

- (1)みなし理事会等電磁的方法に関する規定を追加しました。
- (2)役員の数及び任期について変更しました。
- (3)平成23年のNPO法改正に伴う会議、定款の変更、会計に関する条文の変更及びみなし総会に関する規定を追加しました。

総会終了後、(一財)持続性推進機構理事長等を務めている安井至様から「正義・リスク・科学技術と未来—中小企業に伝えるべき世界的大変動—」をテーマにご講演を頂きました。

- 「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定に向けた懇談会」が昨年8月3日に発足。5回の会合と、2回の非公式会合の成果として、「提言」を安倍首相に提出して終了。

- <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/parikyoutei/siryou1.pdf>

- 上記の成果報告書を是非解読して、カウンセラーとして何を中小企業にアドバイスすべきか、見い出して議論して欲しい。

- 特に、次のメッセージに注目。

★あるべき姿＝「積み上げでない究極の未来像」

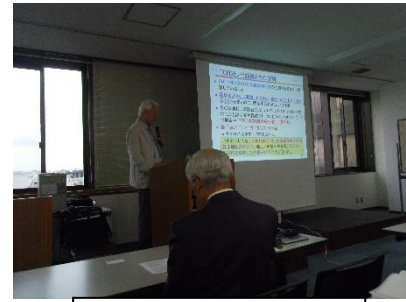
★脱炭素は今から行動！

- “今世紀とは、300年以上続いた「化石燃料」から離脱し、新しい「人類文明」を作り上げる期間。

- それを実現するキーワードは、「新結合（シュンペーター流）」

で「我々が変わる」、「技術が変わる」。「あなたはどうか変わるのか?」。それは、「地球の状況全体の、しかも、2050年~2080年の状況を予測しつつ考える」、しか方法はない。”ということが印象に残った。

- ・その後行われた懇親会は、波止場会館1階のSaLaで約20名が参加し、参加者全員が近況報告を兼ねた自己紹介を行って交流懇親を図り、大いに盛り上がりました。



安井至氏の講演



安井至氏を囲んで懇親会

## ECU（環境カウンセラー全国連合会）通常総会報告

理事長 河野健三

1. 日時：2019年6月21日（金）13:15～17:30
2. 場所：千代田区神田 エッサム神田ホール1号館2階多目的ホール
3. KECAからの出席者：河野健三
4. 主な審議事項等は次の通りです。
  - (1) 全国の環境カウンセラーを対象として行われてきた環境カウンセラー研修等業務についてはECUとして本年度も応札する。(2回目)
  - (2) 「環境カウンセラー登録制度」運用等業務入札にも5回目の応札をする。
  - (3) 環境カウンセラー全国事務局受託の布石として47都道府県で正会員のいない県に賛助会員を増やし、複数の賛助会員による支部という流れをつくり、全国ネットワークの早期確立を目指す。
  - (4) 環境人材認定事業として環境教育インストラクター認定を1000人目標で推進する。  
従来の2日間コースに加え、1日コース、通信教育コースも用意する。
5. 記念講演は名古屋大学名誉教授の竹内恒夫氏から「持続可能な地域へのシステム転換の主役は環境カウンセラー」と題して行われた。竹内先生は環境庁の時からEA21の開発を手掛けられ、現在は関西で活躍されている。(6月27日に講演資料のPDFを全会員へ送信済み)

## 【イベント報告】

### 1. 2019年度 KECA 総合研修会実施報告

#### “SDGs”と私たちの役割

2019年度総合研修会事務局 大曾根健久

”SDGs”（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、私たちが2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットを体系づけたものであり、2015年9月の国連サミットにおいて採択されて以降、世界的な取り組みとなっています。神奈川県内においても、企業や市民団体、教育機関、行政機関などが目標達成に向けた様々な活動を実施しています。すでに皆さまも KECA の活動やご自身の活動の中でいろいろな場面で出くわしていることと思いますが、今後、一層重要性が増すものと思われれます。そこで、今年の総合研修会では、『SDGs と私たちの役割』とのタイトルの下、関東地方環境パートナーシップオフィス（関東 EPO）の島田幸子さんを講師にお招きして講義とグループワークを実施しました。

7月6日、横浜市技能文化会館に集まった17名の KECA 会員は、まず SDGs に関する講義を聞き、その後、4組に分かれてグループワークと発表を行いました。半日の研修会でしたが、SDGs に関する一般知識だけでなく、SDGs を活用したグループワークの進め方や国内各地での取り組み状況に関する理解を深めていただけたものと思います。なお、当日の講義で使用されたスライドは KECA の HP に掲載いたしましたのでご覧ください。併せて以下のホームページもご参照ください。

グループワークテーマ（グループメンバー：敬称略）

- 1) 中小企業による SDGs 実践の支援方策（長安、千葉、近藤、河野）
- 2) 環境教育インストラクター応募資格取得セミナーの充実策（掛橋、大野、日吉、大曾根）
- 3) 持続可能な消費と生産を確保するために環境審査で事業者は何を提示すべきか  
(茂木、原、玉川、大竹)
- 4) クリーンエネルギーや技術革新の推進のために何をすべきか（岩村、中村、加藤、遠藤）

#### ▶ SDGs の概要について

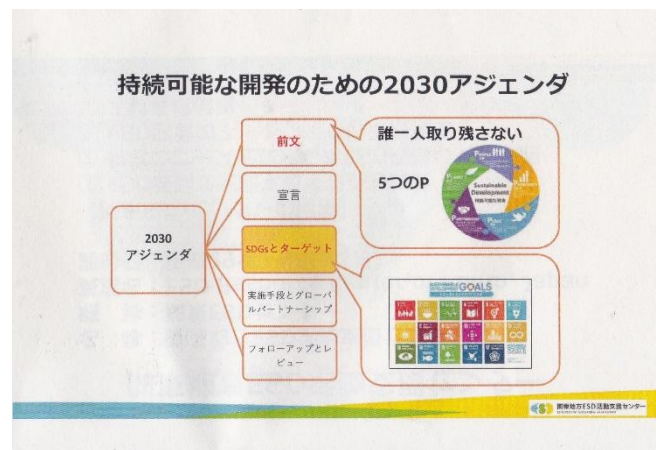
外務省 HP 「SDGs とは？」：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

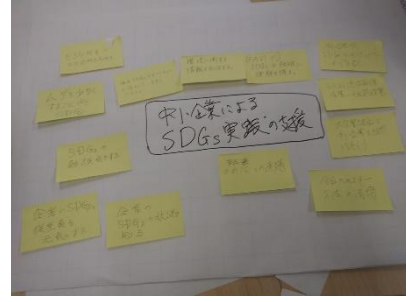
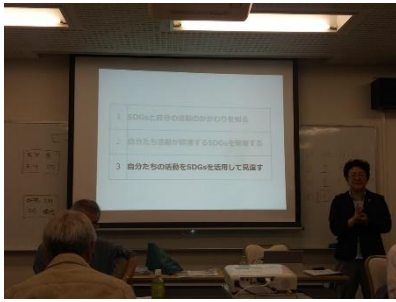
#### ▶ 国内各地・各種団体の ESD/SDGs 関連の活動状況について

関東地方環境パートナーシップオフィス：<https://kanto.esdcenter.jp/>



SDGs の概要や国内動向、SDGs のターゲットの一つである ESD の特徴、地域や学校などにおける実践例などについて講義を受けた。右はスライドの1枚





グループワークは、「SDGs と自分の活動の関わり」→「自分たちの活動が関連する SDGs の整理」→「その活動について SDGs を活用して見直す」のステップで進められた。

グループワークの結果を各グループの代表者が発表した。各グループとも、日頃実施している活動について SDGs の視点から再整理することができた。

環境管理委員会に所属する方々のグループのワーク成果品。このグループは「中小企業による SDGs 実践の支援」をテーマにし、活動の内容や進め方を話し合っていた。

## 2. 8年目の『福島仲間たちとの交流会』

2019 福島交流会事務局 大曾根健久

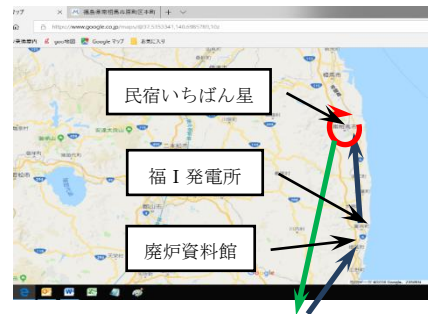
KECA では、東日本大震災の 5 ヶ月後から長澤様を中心とした福島の環境カウンセラー仲間との交流を行ってきました。震災後 8 年余を過ぎた今年は、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業や帰還困難区域等の見学をした後、相双地方で復興に取り組んでいる皆さまとの交流会を行いました。

2 日目に行われた交流会では、「目に見える部分の復興は進んだが、目に見えない部分の傷はより深くなった」、「ここで見聞きしたことを持ち帰り、周囲の方々に伝えて欲しい」との言葉がありました。

8 名の初参加者を含む 14 名の参加者は、この 2 日間で東日本大震災や原子力事故に対する思いをあらたにしたことと思います。なお、今回参加した 14 名の方々には感想文の執筆をお願いしており、集約できましたら冊子とすることを検討しています。

### ■ 8月3日(土) 6:50 横浜駅東口出発

- 廃炉資料館での廃炉作業の概要説明、福一発電所構内の見学
- 長澤様、岩橋様の案内で浪江町請戸・南相馬市沿岸地域・除染廃棄物仮置き場等の状況見学
- 民宿いちばん星での長澤様・岩橋様他との懇親交流会



### ■ 8月4日(日)

- 民宿ご主人の案内で相馬馬の飼育、周辺地区の復興状況、仮設住宅、慰霊碑等の見学
- 北泉海水浴場、福島イノベーション・コースト構想「ロボットテストフィールド」の見学
- 地域の方々との交流会(於；道の駅南相馬多目的ホール)

法螺貝吹奏・法螺貝体験、震災時の状況・今の思いの紹介、除染作業状況の説明、質疑・感想



写真左より、廃炉資料館展示物の見学、南相馬市浦尻での集合写真、交流会冒頭の河野理事長挨拶



写真左より、佐久間氏による「身を守る防災活動」のお話し、法螺貝体験、南相馬市・門馬市長ご挨拶

### 地域の方々との交流会で印象に残った三つのこと 河野健三

私は東日本大震災から5ヶ月後の交流会から参加しています。震災8年後の交流会を通じて福島の3重苦(地震、津波、原発事故)の状況をお聞きし、環境カウンセラーの一人として何が出来るか、KECAとして何が出来るか、をあらためて考えさせてくれた交流会でした。

これまでの交流会で学んだことは「自然の恐ろしさと大切さ」、「心の問題はながく残る」そして「我々の生活に欠かせない電力は福島の世話になっている」でした。これは今も変わりませんが、今回の交流会であらためて三つのことを学びました。

- (1) 原発事故は人災である。その理由は「非常電源装置の設置が地下であった」ことと「水素爆発を起こしてしまった」こと。
- (2) 汚染水と放射線廃棄物処理を含めた廃炉作業は今後40年続く。
- (3) 「家族と一緒に過ごし、普通の生活ができることがいかに大切なことか」が分かった。

震災直後からの8年におよぶご苦労の中から生まれたこれらのお話は私自身、又 KECA として重く受け止めたいを思います。

### 【委員会の活動報告】

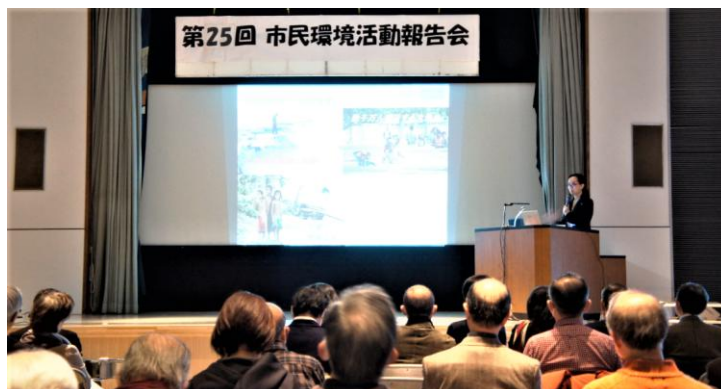
#### ＝環境教育委員会＝ 岡本 正義

●第25回市民環境活動報告会で「市民とともに楽しむ自然体験活動」を報告した

環境活動SDGsと共に～グローバルに考え、地元から行動しよう！～をスローガンに3月2日(土)かながわ県民センターで掲題の報告会が開催された。KECAからは真砂委員が「市民と・・・体験活動」をテーマに親子で楽しむ畑での野菜づくりを報告した。

内容は活動の動機・経緯、取組み内容の詳細、活動の結果および今後の展開を写真入りで紹介した。この活動で子どもからは「自分で作った野菜だからおいしく食べられる」

「畑で蛙やてんとう虫などを捕まえたい」やお母さんたちからは「畑にいると気持ちが休まる」など自然体験活動の素晴らしさが実感できているようである。





●2019年度の環境教育委員会活動の基本方針と行事予定をお知らせします

活動の基本方針は、①環境人材の育成、②環境教育・講座の実施、③環境啓発の推進の3本柱で活動を進めます。行事予定を記載します。

① 環境人材の育成：

- ・環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを12月7日～8日にかながわ県民センターで実施します。募集は9月下旬に開始します。
- ・環境教育インストラクターレベルアップ研修会も開催予定です。

②環境教育・講座の実施：

- ・横浜市からの委託出前授業を、7月18日及び8月20日に横浜市の小学校2校で実施します。テーマは「おさかなと世界のつながりを知ろう」です。
- ・神奈川県からの委託授業であるかながわ環境教室として、2020年2月7日に真鶴町立の小学校で、暮らしとエネルギー～地球温暖化防止～の出前授業を実施します。
- ・事業者向け環境教育セミナーは工場見学を含めて実施予定です。

③環境啓発の推進：

- ・2020年2月21日に神奈川県環境学習リーダー会およびかながわ地球環境保全推進会議と連携して、かながわ県民センターで「市民環境活動報告会」を開催して環境啓発活動を行います。

## ＝環境経営委員会＝ 委員長 近藤 勝養

### 「2019年上期 活動報告」eco 検定試験対策セミナーの報告

6月8日（土）に横浜市西区社会福祉協議会（通称フクシア）多目的研修室で年2回実施される eco 検定試験の試験対策セミナーを行いました。

参加者2名、講師3名の研修会でした。市販のテキストや講師が作成した資料を使います。過去の問題が記載されていて、解答を見ながら考え方を学びます。また講師が企業に所属していた時に行ってきた環境活動について報告しています。

研修会は、以前30人程度参加した時もありましたが、ここ2回程は参加者が少なくなっています。これからも継続して実施していきませんが、参加者が増えるようにして、セミナーの重要性を考えて、集客活動もしっかりして、活発にしたいと思っています。



## ＝化学物質委員会＝ 石井 員良

### エコチル調査について

皆さんは、環境省が実施している「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を耳にしたことがおありでしょうか？

現在、私たちは、人工的に作り出された「化学物質」を利用して、便利で快適な毎日の生活を送っています。しかし、身の回りに存在する化学物質が人の健康に与える影響については、詳しいことは分かっていないのが現状です。特に、化学物質の影響を受けやすいのではないかと懸念されている胎児や子供の健康に対する影響があまり分かってはいません。

そこで、環境省は、2010年度から2032年度にかけて、赤ちゃんがお母さんのお腹にいる時から13歳になるまで、定期的に健康状態を確認し、環境要因（化学物質を含む）が子どもたちの成長・発達にどのような影響を与えるのかを明らかにする調査「エコチル調査」を実施しています。この調査は、約10万組の子どもたちとその両親が参加している大規模な疫学調査です。今年度は、開始後10年度目となり、最も早く生まれた子供たちが小学校2年生になりました。調査で得られた膨大なデータは、整理や分析に多くの時間を費やしていますが、研究成果もまとめられています。

「エコチル調査」の研究成果の一部が、国立環境研究所の2019年度公開シンポジウム「変わりゆく環境と私たちの健康」で報告されましたので、ご紹介します。



### ◇研究成果①：妊娠中の血液中の金属類濃度と早産の関係は？

妊婦の血液中の金属類濃度（カドミウム、鉛、水銀、セレン、マンガン）と早産（37週に満たない時期の出産）との関係を解析した結果、血液中のカドミウム濃度を4つのグループに分けた場合、カドミ



ウム濃度の最も低いグループに比べ、最も濃度の高いグループでは、早期早産（22週から33週）の頻度が1.9倍であることが分かりました。これは、カドミウムのみで認められたものです。

#### ◇研究成果②：妊娠中の血液中のマンガン濃度とお子さんの出生体重の関係は？

妊婦の血液中のマンガン濃度と生まれてきたお子さんの出生体重を解析した結果、男児の出生体重は血液中のマンガン濃度  $19\mu\text{g/L}$  で最も重く、マンガン濃度が低値あるいは高値では出生体重が減少していました。また、血液中のマンガン濃度を4つのグループに分けた場合、男児では、マンガン濃度のやや高いグループに比べて、最も低いグループではSGA（在胎週数に見合う標準的な出生体重に比べて小さく生まれた状態）の頻度が1.4倍であることが分かりました。

備考：4つのグループ分け（低い、やや低い、やや高い、高い）

エコチル調査について詳しく知りたい方は、<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>

（子どもの健康と環境に関する全国調査「エコチル調査」、環境省）を、ご覧になって下さい。

また、国立環境研究所の公開シンポジウム（年1回、6月に開催され、毎年、テーマが異なります）の内容（2018年度まで資料公開）は、<http://www.nies.go.jp/event/sympo.html> をご覧になって下さい。

## ＝エネルギー研究会＝ 地熱の利用の現状と展望

村井 哲郎

地熱は、古来より、日本人の生活にとって切っても切れない関わりのあるエネルギーである。

### 地熱利用の拡大に関わる背景、地熱発電の実態、問題。

地熱の熱源は太陽光、地下のマグマからの熱が主なもので、まさに自然の恵みである。

#### 地熱発電

世界的には、地熱発電はアメリカ、フィリピン、イタリアなど火山地帯の国々に多く、合計約8,500MWの設備がある。日本は地熱資源量では2,350万kW（23,500MW）と世界3位であるが、設備容量は515MWと6位である。

#### バイナリー地熱発電

通常の地熱発電は一定の高圧・高温の水蒸気をタービンに直接吹き付けてフラッシュ発電するのだが、その圧力・温度に達しない熱水・水蒸気の場合は媒体と熱交換させ、蒸発させ、その蒸気でタービンを回し発電させるのがバイナリー発電である。地熱エネルギー（地熱水、地中熱）の利用、経済性、限界、地域との調和、地熱発電に伴う蒸気・熱水だけでなく、地下浅部の熱水を直接利用することも広く行われている。温泉もそうだが、温室、プール、融雪など様々な利用法がある。

#### 地中熱利用冷暖房

地熱発電が地下深部の熱を利用するのに反し、これは、地下100mぐらいまでの浅部の熱を利用する方式である。すなわち、地球上、極端な気象条件の所以外では、地下15mぐらい下がると、1年中恒温（約15℃）の所が多い。この地下の熱を地上にヒートポンプでくみ上げ、必要な温度にまで、昇温、降温すれば、ビル、住宅の冷暖房に利用出来る。

#### 地域共生スキームによる地熱開発

新しい地域共生スキームによる地熱開発が近年全国に広がっている。その一つが福島県の土湯温泉である。東日本大震災後の風評被害により、観光客が激減した土湯温泉では温泉事業者が立ち上がり新たな地域産業の創出地熱発電所を稼働させた。

#### 国の長期エネルギー需給見通し

地熱エネルギーは2030年までに現状の3倍、150万kWにまで拡大するという目標が掲げられている。しかし現在の困難点としては下記が挙げられる。

- 1) 従来、発電所建設までに10年以上の長期間を要し、それに伴いコストが上昇する。
- 2) 自然公園法や温泉法に対する行政の許認可にも時間がかかる。
- 3) 地熱発電の開発には温泉業者の反対が多い。地熱発電の熱源とする地熱貯留槽は地下2～3km以深に賦存するに反し、温泉が湧き出る泉源は地下浅部であるので、地熱発電により影響を受けることは少ないと思うが、温泉業者はその湯量・泉質への影響があるとして強力に反対している。筆者も温泉は大好き、かつ温泉業者の気持ちも理解出来るが、過剰な反対をせずに共存の道がさぐれないものかと思う。
- 4) 更に地中熱冷暖房については、初期コストが高いという難点がある。これは地下熱を採取するための熱交換パイプを挿入するための孔を掘削する試錐のコストが高いために、初期コストが高くなるということである。スイスでは、試錐機がトラックの上に設置されていて、作業が効率的に行われている。またある現場から次の現場までの移動が迅速であり、試錐機の償却が早く出来、コストダウンの一要因となっている。日本でこれを実現しようとする道路移動の際の法規制を緩和しなければならないがこれも行政の考え一つで解決出来るのではなかろうか。

## 【支部の活動報告】

### 横浜支部＝ 河野 健三

#### 1. 2019年度活動計画

横浜支部は、環境経営支援事業（EA21 普及活動、内部環境監査教育等）、環境教育（出前授業等）、その他市民との協同活動、会員等による自己啓発（見学、講演会）を主体に活動を進めています。定例会は、原則として月に1回開催し、毎回30分講話を実施しています。

①EA21 グループは事業者向け SDGs 取り組みセミナー・内部環境監査セミナーを実施予定であり、KECAのHPにある「EA21 相談会」の実施について検討していく。

②自然観察、自己啓発

自然観察会を計画中(9月彼岸の頃、都内の自然観察園)である。

③出前授業

平成31年度横浜市環境教育出前講座登録について KECA から2件登録した。

- ・体感！！PETボトルの3R
- ・おさかなと世界のつながりを知ろう

#### 2. 「30分講話」活動報告

①3月20日の支部会議では太田会員から「家庭の省エネ」についてプロジェクターを使用に行った。家庭での電気やガス及び車の燃料などエネルギー消費をカロリー換算で集計比較しどの時間帯・どの器具の影響が大きいかなど等々の説明がよく理解できた。

②5月23日の支部会議では長安会員から日本化学工業協会が進める「レスポンシブルケア」について説明があった。

#### 3. 横浜市・神奈川県との連携の模索

①6月28日にヨコハマ SDGs デザインセンターで横浜コンソーシアムが開催され日吉、河野、岩村、長安が参加した。今後も継続して参加しデザインセンターの活用について検討していく。

②7月10日に県庁で 黒岩知事との対話が開催され、河野、長安、岩村が参加した。

「かながわプラごみゼロ宣言」がメインテーマであったが、廃棄物処理が自治体によってバラバラであることについて多くの意見が提起されたので、2014年から2015年にかけて横浜支部が行った環境省からの委託による「学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業」について、神奈川県ホームページにある、わたしの提案（神奈川県への提言）に投稿し、学校給食のびん牛乳が0%となったことに対して、黒岩知事に問題提起をした。

## ＝湘南支部＝ 小山 稔 ～茅ヶ崎市立香川公民館で親子環境教室を開催～

2019年（令和元年）7月6日に、「楽しく学べる親子環境教室」と題して、主に香川小学校と鶴が台小学校の生徒と保護者を対象として「地球温暖化に関する親子環境教室」を KECA 湘南支部、神奈川県地球温暖化防止活動推進員湘南地区のボランティア会員の参加の下に、茅ヶ崎市立香川公民館との共催事業として開催しました。

この親子教室は、当初6月の第1土曜日に予定されていましたが、香川小学校の運動会と重なることとなり、7月の第1土曜日に変更となりました。梅雨空が続き各地で七夕まつりなどのイベントが開催される時期ではありましたが、幸い前夜の雨も止み曇り空の中を小学生4人と保護者計7名が参加されました。ボランティアの皆様の熱心な指導の下に、親子が並んで椅子に座り顔を見合わせ、時には相談しながら座学やワークショップ作業に取り組むという微笑ましい姿が見られる楽しい親子環境教室となりました。子どもたちのアンケートには全員楽しかった、また参加したいと記されていました。

今回の環境教室の前半30分間は、「神奈川県制作の小学生向けビデオ」（地球温暖化とは？地球温暖化の原因は何か？暮らしにどんな影響があるか？地球温暖化を止めるためにどのように行動すればよいか？などを映像とナレーションで分かりやすく紹介するもの）の映写とサイダーやドライアイス、呼気などの身の回りの二酸化炭素についてのクイズ、後半のワークショップ60分間は、香川公民館の雑木林での樹木の幹回りの測定と樹木の二酸化炭素の吸収量の計算、館内での節電家族の手回し発電機による白熱電球とLEDの点灯エネルギー（力）の比較体験とエコワットを使った1000wと500wのドライヤーの消費電力比較、さらに顕微鏡を使ったマツの葉の気孔（二酸化炭素を取り込む微細な穴）の観察、消石灰透明水溶液に紙ストローで息（呼気）を吹き込む実験（二酸化炭素で液が白濁）などの体験学習を親子で一緒に体験してもらいました。ボランティアと公民館職員の皆様には小学1、2、4、5年生とお母様方に丁寧に対応していただき、本当にお疲れ様でした。

教室の終了後に、かながわアジェンダ推進センター堤事務局長からの「COOL CHOICE」賛同署名と神奈川県の「マイエコ10トライ宣言（子どもバージョン）」への署名の呼びかけがあり、参加者全員から署名をいただいたそうです。保護者の皆さんには、帰りに補足資料としてかながわアジェンダ推進センター発行の読本「ストップ地球温暖化」を配布しました。



電卓で二酸化炭素吸収量を計算する親子



雑木林で幹回りの測定方法を聞く親子

開催に当たって、香川公民館が広報ちがさき 6月15日号への掲載、近隣小学校へのチラシの全校配布などの情報提供を行ないましたが、参加者が少なかったことは残念でした。

- ◆当日参加したボランティアは、KECA 湘南支部（\*嶋田、\*西村、小川、中本、\*小山）、神奈川県地球温暖化防止活動推進員湘南地区（平本、江上）の7名でした。  
なお、\*印の方は、神奈川県地球温暖化防止活動推進員湘南地区にも所属。（小山記）

**【新入会員】<自己紹介>掛橋俊彦**

いきなりですが、みなさんは容器包装リサイクル法をご存知ですか。

名称や概要は知っていても、リサイクルの実態までをご存知の方は少ないのではないのでしょうか。私は現在廃棄物処理・リサイクルの会社に勤めているので、一般の方々よりは多少は知っているつもりです。この法律で廃棄物のリサイクルは前進したはずですが、効果は？課題は？このリサイクル法だけを見ても、常にいろいろな角度・視点でとらえ、考えることが大事だと思います。今はごみ処理のことしかわかりませんが、入会を契機に、いろいろな知識・経験を持つ人たちのお話を聞き、理解を深めていければ、期待しています。よろしくお祈りします。

**【新入会員】<自己紹介>北条慶智**

2018年度環境カウンセラー試験(事業者部門)の面接の最後に、面接官より「あなたはコンサルタントとカウンセリングを同じように捉えているようなので、カウンセリングとはなにか、もう一度見直すといいと思います。」という重いお言葉をいただきながらも、何故か試験合格しました北条と申します。

普段は、建設コンサルタントにて、各種事業の環境アセスメント（自然系）を担当しています。面接での宿題をクリアするため、市民部門と事業者部門が交流し、かつ地元神奈川の環境カウンセラー協会である KECA で勉強させていただこうと考え、入会いたしました。まだ、何がどこまで出来るかわからない状態ですが、よろしくお祈りいたします。

**【編集後記】**

本 66 号には、巻頭言、総会報告、総合研修会、福島交流会、委員会・支部の活動報告、新入会員紹介を掲載しました。

今年は、遅い梅雨明けでしたが、地球温暖化、異常気象など、益々環境が厳しくなっている中で、熱中症に気を付け、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、今まで以上に情報発信をしていきます。仲間を増やしていくために、ご協力を宜しくお祈りします。（千葉）

〔発行〕 特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：河野健三 / 編集人：千葉雅子

◇住所：〒231 - 0001 横浜市中区新港 2 - 2 - 1

横浜ワールドポーターズ 6 階 NPO スクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：https://keca-kanagawa.jimdo.com/